

感謝の気持ちを込めて、ありがドーン!



創作和太鼓集団 みのり太鼓

お じま たつ や
小嶋 竜也 さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.185

みの〜れ周辺の大きな桜の木も少しずつ赤みを帯びてきたように感じます。春が待ち遠しいな・と桜の木を眺めています。小美玉市に拠点を置く創作和太鼓集団『みのり太鼓』は今年、結成30周年を迎え、幼稚園年長から60代までの和太鼓が大好きなメンバーが活動しています。今回は、みのり太鼓のメンバーで小美玉市寺崎にお住まいの小嶋竜也さん取材します。

離れて分かる大切な居場所

「新しい文化の起爆剤に」を目的に、公募で1992年4月に結成したみのり太鼓。結成当初から打ち手の気持ちに前向きにのせた魅力あふれる太鼓を目指し、現在は約30名が活動しています。

小嶋さんが入会したきっかけはお母さん。「習っていたスイミングを辞めたときに、母親がみのり太鼓を推してきました。人見知りなので、最初は嫌だなと思ってたんですよ」と笑います。

中学から高校時代にのめり込み、青山芸術祭第1回創作和太鼓コンテストでグランプリを受賞。結果も出て順風満帆かと思いきや、20歳でみのり太鼓を退会。「やり切った感がありました。それと、たぶん遊びたかったのかな。特に未練は無かったんで

すよね」。

25歳で結婚。結婚披露宴でみのり太鼓に演奏を依頼。「やっぱり太鼓はいいな」と思い始め、1年ぐらいモヤモヤしていたときに、奥さんが「やりたいならやりなよ」と背中を押してくれて、みのり太鼓に復帰。仕事と両立は苦にならず、練習のある土曜日は仕事が終わってから合流しています。

昨年、小嶋さんの長男・結月くん(小1)がみのり太鼓に入会しました。「私の時と同じように、母が孫に太鼓をやらせたくて(笑)」。みのり太鼓30周年記念公演「響け!轟け!ありがドーン」が初舞台となり、親子共演を果たします。「親としては冷静には見ていられない」という小嶋さん。入団して1年も経たない小さい子から大人まで、一緒に舞台上がるのはみのり太鼓として初の試み。「メンバー全員で出る

シーンをぜひご覧いただきたいです。20歳で一度みのり太鼓を離れた私としては、若い子たちに長く続けてもらって、ずっとみのり太鼓が活動できたらいいなと思っています」と笑顔で話してくれました。

8年前、みのり太鼓の稽古場が全焼。太鼓も衣裳もすべて失ってしまいました。すぐに地域の人たちや全国の和太鼓仲間、遠くは姉妹都市のアメリカ合衆国カンザス州アベリン市からも支援の手が入りました。「メンバー誰ひとり離れることなく再起して30周年を迎えられたのも皆さんのおかげ。感謝しています」と小嶋さん。

みのり太鼓30周年記念公演「響け!轟け!ありがドーン」。お腹の底にまで響く和太鼓、そして優しい音色の篠笛、力強いかけ声に感謝の気持ち加わって、たくさん元気がもらえそうです。

(藤田佐知子)